

助成事業実施報告書

団体名 NPO 法人 ごみ・環境ビジョン21

代表者・役職名 氏名 田浪 政博

1. 助成プロジェクト名

「市民ごみ大学セミナー」と「生ごみリサイクル交流集会 in 多摩」の開催と記録集の作成

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1996年12月、三多摩発アクションフォーラム「21世紀のごみを考える！」を小金井公会堂で開催したことがきっかけとなり、準備会を経て1998年5月に設立、2002年5月にNPO法人格を取得。現在、会員は全国に約180(団体・個人)

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

多摩地域の自治体ではごみの「埋め立てゼロ」が進み、いよいよ発生抑制と脱焼却・資源化へ、すなわち「ゼロ・ウェイスト」に向かって進む段階にきています。COP21のパリ協定に盛り込まれたCO2の大幅削減のためにも、ごみ減量を進め、リサイクル率を大きくアップさせる必要があります。ごみ・リサイクルに関する実践情報についてのニーズはより高まっていると言えます。

このような背景の中で、行政・市民が協働の意識を高め、優れた実践活動の事例や考え方を学び、多摩地域全体のレベルアップを目的に実施するものです。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「生ごみリサイクル交流集会 in 多摩」を6月に開催、市民ごみ大学セミナー「さらなるごみ減量・資源化への挑戦～がんばる自治体の取り組み～」を10月に、「事業系ごみ減量の進め方を考える」を2月に開催しました。実施後には、その内容を情報紙「ごみと・SUN」で特集し、記録集を作成して、各地の実践を進めるために、多摩地域の自治体や市民団体等に寄贈しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT. 実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME. 事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT. 事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

ごみに特化してセミナーや交流集会を開催し、200名ほどの参加者で場を共有できました。また、終了後には記録集を作成して多摩地域の自治体や関係者に寄贈しました。このことで当会に対する信頼が増し、市民だけでなく自治体の担当者の参加が大変多くなってきました。環境省が毎年発表している、全国の自治体のごみの3Rのランキングでは、ごみの少なさやリサイクル率の高さで、ベスト10のうち、多摩地域の自治体が7つを占めるまでもなっています。このプロジェクトが多摩地域全体のレベルアップにつながっているものと自負しています。また、「月間廃棄物」にも当会のこれらの活動が取り上げられたことから、全国的にも認知され、いい影響を与えていると思います。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今後も地道にはありますが、要望のあったテーマを設定して、他団体と連携し交流会やセミナーを開催していきます。ただ、記録集の作成には時間と労力がかなりいるので、担当者の負担が大きいのが課題です。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり

第7回 生ごみリサイクル交流集会 in 多摩 2015

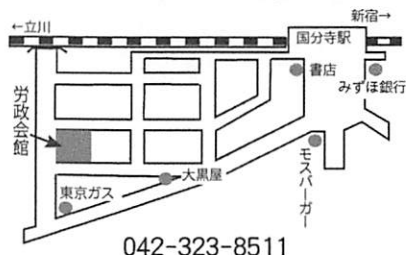
生ごみを地域で活かそう！
地域の資源循環ネットワークをつくろう！



6月13日(土)
13:30~16:30

国分寺労政会館
■ 4階・第5会議室

中央線・西武線 国分寺駅南口徒歩5分



042-323-8511

真如苑助成金事業

主催 NPO法人 ぐみ・環境ビジョン21
「生ごみリサイクル交流集会実行委員会」*
*多摩地域各地で活動している市民で構成

NPO法人 ぐみ・環境ビジョン21

〒185-0012 東京都国分寺市本町2-19-9-7

TEL&FAX 042-328-6621 月曜日 13~17時

★上記開所時間以外の連絡先 080-6670-6641 (江川)

080-1131-6205 (井上)

Eメール: gomikan@mtf.biglobe.ne.jp

生ごみ分別収集をしたり、計画を立てている行政が増えてきました。市民レベルで生ごみを資源活用している団体も地域に広がっています。

都市部での生ごみ堆肥化は難しいと考えられていますが技術革新も進み、ごみの資源化の実現への道すじが見えてきました。市民と行政が連携し、ネットワークを構築していくことで生ごみ資源循環の環を地域に広げていきましょう。

資料代：500円

申し込み不要。
直接会場へどうぞ！

返子市 生ごみが減れば
地域が変わる



返子市資源循環課長
石井義久さん

家庭ごみの中で最も多い生ごみ。生ごみの問題を解決すればごみ行政は大きく変われます。

事業系生ごみの排出を規制し、商業地の美化が進みました。家庭での排出抑制にも力を入れて取り組んでいます。

武蔵野市 武蔵野市における
生ごみの
拠点回収・堆肥化



クリーンむさしのを推進する会
志賀和男 さん*今木仁恵 さん

武蔵野市では「官・民1カ所」「民・民3カ所」の生ごみの拠点回収とその堆肥化を進めており、全く違った内容の取り組みとなっています。そこで、この4つの事例について報告してもらいます。

東大和市 自家製の
竹パウダーで
生ごみ減量・堆肥化



NPO法人 東大和ごみレスくらぶ
内野真奈美さん

市内の竹を粉碎して竹パウダーを作り、それを基材にしたダンボールコンポストを始め、さまざまな方法による生ごみ減量・堆肥化の普及に取り組んでいます。講習会によって実践者も増えています。

立川市 生ごみの分別を通じて
結束した
地域コミュニティ

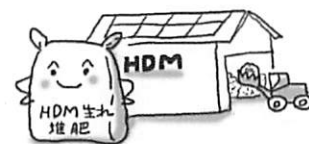


立川市大山自治会前会長
佐藤良子さん
立川市ごみ対策課ごみ減量推進係長
鎌田純文さん

平成26年8月から立川市大山自治会の約1470世帯でスタートした「生ごみ分別・資源化事業」。

この取り組みを通じて得られた財産は、ごみ減量への意識向上だけでなく、会員同士のふれあいです。

事業者 HDMシステムによる
生ごみ処理の
現状と展望



(株)熊谷清掃社代表取締役
西野則幸さん

HDMシステムは、微生物を利用して生ごみの減容化処理を行うシステムで、24時間で90%以上の減容をほぼ無臭・低コストで実現しています。このシステムのパイオニアから直接お話を伺います。

